

1 教育目標 教養と品性を磨き、心身を鍛える生徒

2 努力目標

【自律】目標に向かって、見通しをもって継続的に努力する生徒

【創造】自他の考えを練り合い、協力しながら創意工夫する生徒

【貢献】違いを尊重し、進んで人のために行動する生徒

3 学校経営方針

～「自律」・「創造」・「貢献」～

新しい時代を主体的に生き抜く力を備えた「アクティブ・ラーナー」の育成を私たち横内中学校教職員の使命と位置づけ、「教育は人づくり」という視点に立って、全ての教育活動を「自律・創造・貢献」のキーワードにリンクさせながら、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を実践する。

4 目指す学校像

(1) 生徒がここで学びたいと思える学校

- ①わかる、できる、ワクワクがいっぱいの楽しい授業
- ②一人一人がかけがえのない存在、かならず見つかる自分の居場所
- ③誰もが認められる、自己有用感を感じられる教育活動

(2) 保護者が子どもを通わせたいと思える学校

- ①子どもを包み込む温かい空気と教職員の眼差し
- ②子どもの確実な成長が見て取れる教育活動
- ③学校・保護者・地域が共に手を取り、子どもを育てる教育実践

(3) 地域が自慢できる学校

- ①教育活動をととした地域貢献
- ②地域を巻き込んだ魅力的な教育活動
- ③学校からのタイムリーな情報発信→教育活動の見せ方

(4) 教職員がここで働きたいと思える学校

- ①全教職員の共通認識に基づいた目的と手段の共有及び共通行動
- ②教職員の創意工夫を生かした分掌及び学年運営
- ③教育的効果を高めるための業務改善及び教職員のワーク・ライフ・バランスの実現

5 目指す生徒像～生徒の瞳を輝き続けさせるために～

- (1) 目標や結果を見据え、見通しをもって計画的に行動する生徒。
- (2) 知識・技能や情報を活用し、創意工夫しながら主体的に課題を解決する生徒。
- (3) 違いを尊重し、目標の合意形成を図りながら協働し、最適解を導き出す生徒。
- (4) 相互の利益を求め、ルールに則り建設的な意見を表現する生徒。
- (5) 社会・集団とのかかわりを自覚し、主体的に貢献する生徒。
- (6) 喜びや苦勞を仲間と共有できる生徒。

6 目指す教師像～プロフェッショナルな教師を目指して～

- (1) 生徒の心を包み込み引きつける、魅力と活力あふれる教師。
- (2) 謙虚な姿勢で他かから学び、新たな価値を創造する教師。
- (3) 多様な価値観・考えを尊重し、コミュニケーションをとおして課題を解決する教師
- (4) 相互の利益を求め、協働しながら成果を出す教師。
- (5) 喜びや苦労を生徒や同僚と共有できる教師。

7 学校経営の重点

教育活動にキャリア教育の視点を生かし、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」を育みながら、「これからの社会を主体的に生きるアクティブ・ラーナー」を育成するために、以下の項目に留意しながら教育活動を実践する。

- (1) 学校生活の大部分が授業であることから、授業の充実なくして学校生活の充実はない。横中生の「確かな学力」向上のため、全身全霊を込めて授業改善に取り組む。

- ① 基本的知識・技能の定着とアクティブラーニング（AL）のバランスのとれた授業実践
・効率的な知識・技能の習得と「プロジェクト型学習」の推進
- ② ICTの効果的な活用による知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の向上。
・AIドリルの効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現のためのICT活用
- ③ 横中スタンダードの確立と教員全員の共通行動による授業改善。
・「AL指数」によるアクティブ・ラーニングの日常化
・「R50」による振り返りと学びの再構築
- ④ 学習習慣を確立し、生徒の主体性を引き出し、成長を実感させる学習評価の工夫と改善。
・目的を明確にし、学力向上に資するテストの実施（到達度テスト・学期末一斉テスト）
・到達度テストにおけるCBTの推進

(2) 道德教育の充実

人間が生きていく上で、精神的な土台となるのが道德性であり、「生きる力」を育む上で極めて重要である。横中生の道德性を育むため、全教育活動において道德教育を意識した取組を実践する。

- ① 道德の内容を明確に位置づけた諸計画の作成。
- ② 道德的に課題に向き合い、考え、議論する道德の授業実践。
- ③ 主体的に考え、行動するための道德的实践の場の設定。

(3) 総合的な学習の時間

課題を自覚し、協働しながら課題解決をするプロジェクト型の学習活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を図り、プレゼンテーションにより「伝える力」を育成する。

- ① 地域の課題について考え、解決を目指すためのプロジェクト型学習の実施。〔「清流」と「古城」の郷 笑顔にプロジェクト〕
- ② クエストエデュケーションを通して、仲間と協力しながら社会的な課題を解決する力を育成する（1学年：ソーシャル・チェンジ・ファースト、2学年：ソーシャル・チェンジ、3学年：コーポレート・アクセス）
- ③ 大連市との友好交流事業を通して、国際感覚を養う。

(4) 特別活動の充実

集団や社会の中でよりよい生活、よりよい人間関係を築くための基礎を養うために、生徒会（学級）活動、学校行事等の充実に努める。

- ① 生徒が主体的に取り組む「プロジェクト型」の生徒会活動・学級活動（ヨコモン・プロジェクト）の実践。
- ② ねらいを明確にし、自身及び集団の成長が実感できる学校行事の実践と内容の精選。
- ③ 異年齢集団で自己を磨き、目標達成のために最大限に努力をする縦割り活動の推進。

(5) 生徒指導の充実

生徒指導の目的は「自己指導能力」の育成である。一人一人の規範意識を醸成するとともに、全ての教育活動に生徒指導の機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かした実践をする。

- ① 生徒指導の機能を生かした学年・学級経営及び授業の実践。
- ② チーム担任制を生かした、一人一人の生徒の実態に応じた生徒指導の充実。
- ③ いじめの正確な認知と対応、いじめ防止対策委員会の充実（いじめ見逃しゼロを目指す）。
- ④ 不登校生徒の学校復帰を目指した働きかけ（保護者との連携、ICTの活用）。

(6) キャリア教育の充実

すべての教育活動にキャリア教育の特質を生かしながら、生徒一人一人が現在の学びと将来とのつながりを見通し、社会的・職業的自律ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成（学びに向かう力・人間性、思考力・判断力・表現力、知識及び技能）に努める。

- ① キャリア教育の指導計画及び指導体制の整備。
- ② 現在・将来の生き方を主体的に考える指導及び進路指導の充実。
- ③ 生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成。
- ④ 相同的な学習の時間における探究活動（クエスト・エデュケーション）。

(7) 特別支援教育の充実

発達障がいを含む障がいのある生徒が、主体的に困難を克服し最大限に力を発揮できるよう、特別支援学級の指導を充実させるとともに、障がいを理解し多様性を尊重する学校文化を醸成するために、交流学习を中心に据えたインクルーシブ教育を推進する。

- ① すべての生徒に役立つ、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり。
- ② 生徒の成長を見通した指導計画・支援計画の作成と全教職員による教育支援。
- ③ 障がいをもつ生徒の社会参加を促す交流学习の充実。

(8) 保健・安全教育の充実

生徒が健全な学校生活を送るために、健康・安全に関する知識・判断力・行動力を育成するとともに、地域の協力も仰ぎながら保健・安全教育の充実を図る。

- ① 学校地域の実態を加味した、実効性の高い諸計画の整備。
- ② 生徒への啓発及び指導、保護者への情報提供、感染防止を通した新型コロナ対策の充実。
- ③ 健康に関する知識を身に付け、主体的に健康な生活を送ることができる能力の育成。
- ④ 安全に関する情報を主体的に整備・判断し、安全を確保できる能力の育成。
- ⑤ 防災教育の充実と実効的な防災訓練の実施（地域防災訓練への参加）。

(9) 教職員の資質向上

学校教育の成否は教職員の資質向上によるところが大きく、生徒とともに成長し、常に学び続ける教職員集団を構築する。

- ① 法令・服務規律の遵守と指標に基づいた目標設定および自己評価。
- ② 主体的に業務を改善するための、個々の業務状況の「見える化」。
- ③ 日常的に学び合い、指導力を高め合う実践的な校内研修の推進。
- ④ 積極的な校外研修の受講及び成果の共有。
- ⑤ 非違行為等防止のための、服務に関する校内研修の充実。

(10) 地域・家庭との連携の充実

- ① 保護者とのこまめな情報収集。
- ② 各種通信、ホームページ等による積極的な情報公開。
- ③ まちこみメール活用による情報発信及びアンケート等の実施。
- ④ 地域の教育ソースの積極的な活用。
- ⑤ 小・中連携の推進（小・中連携事業公開発表）。

(11) 教職員の業務改善

主体的な業務への取組による多忙感の解消と業務改善を図る。また、教育効果をあげるため、教職員の意識改革を図り、ライフ・ワーク・バランスとやりがいのある職場の両立を目指す。

- ① レク方式及び起案性によるボトムアップ型の提案と推進。
- ② 新型コロナの状況を踏まえた web 会議の充実。
- ③ 意志決定プロセスを重視した会議の充実とペーパーレス化の推進。

案件の吟味⇒（レク）⇒起案⇒決裁・承認・⇒主任会・運営委員会（意思決定）
⇒職員会議（共通理解・微調整）

- ④ 時間割・会議日程等の柔軟な運用による休暇取得の推進。
- ⑤ 令和5年度からの2学期制導入の検討。

以上の方針に基づき、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、生徒の安心・安全を最優先にして教育活動を実践する。そのため、指導体制や学校行事の在り方等については、感染状況を鑑みながら、柔軟に対応することとする。